

生物の写真を撮る時は、「どんな生き物か」という形態的な特徴だけでなく、「どんな場所に生息していたのか」という、生態的な特徴も一緒に撮ることが重要だと思います。特にキノコ（真菌類の子実体）は、それが重要です。樹木の上なのか、地面なのか、そのほかのものの上に発生したのか・・・といった情報です。

更に同じ「樹木の上」でも、生きた樹木の幹なのか、朽ち木なのか、切り株なのか・・・でも種の同定に影響を与えます。同じ「朽ち木」でも、「白腐れ」なのか「赤腐れ」なのかでもちがいます。地面でも、腐葉土上なのか、針葉樹の林床なのか、落葉広葉樹林なのかで、また発生するキノコはちがいます。他にも、動物の糞、骨、昆虫の幼虫や成虫、他の菌類の上に発生する種類も存在します。

「モリノカレバタケ／森ノ枯葉茸」(ホウライタケ科) *Gymnopus dryophilus* は、今の時期どこでもごく普通に見られるキノコです。ごく普通に見られるので、撮影の練習には適しています。この時は、カラマツ林の落ち葉の上に発生していた・・・という様子を撮ろうと思い、地面に腹ばいになって撮影しました。キノコの写真の撮影は、どうしても腹ばいになることが多いのです。

(2024年9月中旬／北軽井沢)

